

3/11(土)ミッドウィンター前日の講習会メモ

1. スケジュール：

- 日時：3月11日(土) 10:00~17:20
  - 10:00~11:30 座学 \*クラブハウス 1階 B会議室
  - 11:30~12:00 出艇準備
  - 12:00~16:00 海上練習(帆走、マークラウンディング、コース練習)
  - 16:40~17:20 練習後の振り返り(ビデオによる確認) \*クラブハウス 1階 B会議室

2. 場所：

- 江ノ島ヨットハーバー(会議室)、江ノ島沖(A海面を使用)



<江ノ島ヨットハーバー内クラブハウス>

3. 参加人数：

- 16艇(32名)

4. 講習会テーマ、資料：

- 「強風時のボートセッティング」と題して実施。  
強風時のチューニング、マスト/セールセッティング、走らせ方を中心に実施。
- 資料「強風時のボートセッティング(全22ページ)」

5. 講師：本吉夏樹さん \*サポート：伊藤一石さん

6. 海上コンディション：

- 風速：3~6m/s
- 風向：80~110° のち 140~160°

7. 座学メモ：

- 下記を実施。
  - (1) マストバンド
  - (2) ドラフトポジションとリターン
  - (3) マストサギング
  - (4) バテンテンション
  - (5) シーティング
  - (6) ジブセール
  - (7) センターボード
  - (8) 質疑応答



<海上練習後の振り返り>

#### (1) マストベンド

- 強風時に、メインセールがブレイク(裏風が入っている状態、シバーしている状態)している状態で走っている艇が多い。ポートセッティングで適切なパワーにして、ブレイクしない状態で走る必要がある。
- 日本のテザーセーラーは、ハンドリングに頼る傾向があると思うが、ポートセッティングを理解すればさらに早くなる。クローズで上ることで風を逃がす走り方があるが、テザーの場合、風を当て、スピードを出す走らせ方が速いと考ええる。
- テザーの場合、470等の艇種と比較してマスト柔らかい。特にトップマストが柔らかい。セッティングに大きく影響する。

#### (2) メインセールのドラフトポジションとリターン

- リターンとはセールのリーチセクションのフックのこと。リターンが大きければセールが閉じた状態、小さければセールが開いた状態といえる。
- テザーはフルバテンでありリターンしやすい。特にドラフトバック(セールのドラフト(深い部分が後方に移動すること))した際にリーチのリターンが非常に大きくなってしまう。
- そのため、カニンガムを強く引くことで、ドラフト位置を調整する必要がある。470等の艇種ではバングを引くことで調整するケースがあるが、テザーの場合、マストが柔らかく、バングを引くことによるマストを前に押し出す力でベンドを作りすぎる。悪い影響を出してしまう(オーバーベンド)。メインセールが平らになりすぎ、パワーを失いやすい。
- リターンが小さい場合、ウェザーヘルムが小さくなり強風時走りやすいが、風が落ちた場合にすぐに戻さないとパワーを失い続ける、ヘルムがスカスカになるなど、ボートスピードを出しづらくなる。適切な調整が必要。

#### (3) マストサギング

- ダイヤモンドステイが特徴的。ロアマストのベンドに影響を与える。ダイヤモンドステイを張ることで、ロアマストの腹の部分のベンド量を調整する。クローズにおいては、ローテーションレバーでマストを回すため、いわゆるサイドベンドを調整することではない。少し斜め方向へのベンドになる。
- 27××番代以前の艇は、ジブカム取付金具の左右位置がずれている場合があり、測定が必要。マストステップからの距離を測定し、左右距離を合わせて使う必要あり。

#### (4) バテンテンション

- トップマストが柔らかく曲がりやすく、メインセールトップ部分のセールが浅くなりツイストすることから、上半分のバテンを強くセットし、セールシェイプを保った方が良い。リターンの量に影響することから、パワーがほしいケースは良いが、強風時は注意が必要。

#### (5) メインセールシーティング

- ほぼすべての風域でトラベラーを推奨する。マストが柔らかいため、バングシーティング(バングを使ってパワーダウンしながらトリムすること)を行った場合に、マストが曲がりすぎ、セールシェイプに悪い影響がでる。
- バングを引くことによって、フォアテンションが弱くなり、サギングが増えるなどの理由もある。

#### (6) ジブセール

- 強風時にサギングが大きくなると、ドラフトが後方に移動し、リーチリターンが大きくなる。そのため、スロットルが狭くなり、メインセールにバックウィンドが入る。そのため、強風時はさらにフォアテンションが必要となる。中風以下の場合と強風時で2種類のチューニングを持つことを推奨する(強風時にはより高いフォアテンションでセット)。
- ジブハリヤードはメインのカニンガムと同様に考える。ドラフトポジションの調整に使う。強風時には、フォアテンションを高める助けにもなる。
- ジブのシーティングアングルを、トップセクションをツイストさせることで変えることができる。よりツイストさせることで、パワーダウンを図っていく。クリューボードを下げることで、リーダーを外に出すことでよりツイストさせることができる。また、ジブのタックを上げることで、クリューボードを上げることと同じ効果をだすことができる。ジブのタックに(\*1)タックハイト(シートで高さを調整できるようにした調整具)を取り付け、ジブを上げたり下げたりする。オーストラリアのダグラスチームも取り付けている(クラスルールとしても問題なし)。

#### (\*1)タックハイト

タックハイトは右の写真を参考にしてください。サプライスされた輪の中にコブを通して使います。サプライスされているので、コブを通すだけです。外れることはありません。輪に通すコブの位置を変えることで、ジブの高さを変更します。コブの位置を変えるだけなので、レース中でも変更可能。



<タックハイトの写真>

#### (7) センターボード

- セールを適正に保っても、セールがブレイクする場合に、センターが下がりすぎているケースがある。風速が上がるにつれて徐々に上げていく必要がある。レース中の風の変化で頻繁に変更する必要がある。
- センターボードは上げてデッキの高さまでが良いと考える。

## (8) 質疑応答

- フォアステイの長さはどれくらいが適切か？  
→4120~4160 mmのルールの範囲の中で、より伸ばしている艇が多い。しかし、4140 mmなどマストが立った方が、パワーが増し、セールが安定するという考え方もある。いろいろな風域で試してみてください。
- 乗艇位置に関しての注意事項はあるか？  
→テザーはバウがとがっており、センターと同様にバウを水面にしっかりさして、水平長をフルに活かした方が良い。基本的に前に乗るべきである。
- 本日はクローズのポートセッティングの話が中心であったが、フリーの走らせ方でアドバイスはないか？  
→リーチングにおいて、メインセールの出し入れでヒールバランスを取っている艇をよく見かけるがよくない。艇のバランスを崩す。リーチングは99%ハンドリング。ラフ、ベアで艇のヒールバランスを取るべき。艇に入るアパレントウィンドを変化させない(一定に)ように走らせると良いと考える。アパレントウィンドを変化させない練習が必要。
- ジブリーダーは強風時にどれくらい出すことが適切か？  
→出しても外側に3ポイント程度まで出すのが良いと考える。
- 講師のスキフポートなどでの経験から、テザーのフリーの走らせ方に対するアドバイスはあるか？  
→テザーはウィスカーポールが短い。上ると、すぐにジブセールが袋のようになってしまい、スピードに変えることができない。上らせて走る走らせ方は向いていないと考える。角度のゆるいリーチングでもなるべくウィスカーを張らない方が良い(ジブが袋になる状態で走らない方が良い)。
- フリーにおけるローテーションレバーの使い方は？  
→諸説あるが、正しい答えは持っていない。ランニングでオーバーローテーションにした場合に、リーチのフックが増える。中風以下では使わない方が良い。

## 8. 講習会の海上練習時のビデオ

- 海上練習時のビデオ映像は、別途ホームページにアップします。良く取れているのでご参考ください。

9. 次回講習会予定

- 5月28日（日）のアーリーサマー前日5月27日（土）に実施することを計画中。
- 江ノ島で実施予定。詳細スケジュールを日本テーザー協会ホームページでご案内致します。

10. 最後に

- 本メモは講師の説明を反映したのですが、完璧に記載できていない部分があるかもしれません。その点、ご了承ください。

以上